

駿河湾の深海魚 (11)
ヤリホシエソ (その1)
久保田 正・佐藤 武



図1. ヤリホシエソ; BL 241.0mm 1980年5月19日 サクラエビ網混獲

ヤリホシエソ *Leptostomias multifilis* は、ワニトカゲギス目、ホテイエソ科、ヤリホシエソ属に含まれ、水深約 200 ~ 600m に生息する中深層遊泳性魚類の 1 種です。その分布は、太平洋岸東北沖、相模湾、駿河湾、土佐湾などの日本近海から知られています (図 1)。

本種は、1941 (昭和 16) 年に今井貞彦博士によって駿河湾内から得た個体により (7 種の深海魚とともに) 新種として発表されました。当時、同博士は伊豆半島先端の下田港から 4km 離れた相模湾に面した須崎の海岸にあった「三井海洋生物学研究所」(1933 年に設立) の研究員の一人でした。若い頃はここで駿河湾や相模湾から採集した深海魚類の研究を行い、後に鹿児島大学水産学部の魚類学の教授として学生の指導に当たられました。図 1 の写真では発光器の位置や数が判りにくいので、同氏の論文から引用した全体図を紹介します (図 2)。

本種の体長は、19cm 以上になります。また体色は、ホテイエソ科に含まれる他の種類と同じように黒褐色で深海域に棲んでいる魚を代表する魚姿をしています。体は細長く、やや側扁していて眼は小さく、口は極めて大きく、上顎骨後端は、前鰓蓋骨の後縁下にあります。下顎にあるヒゲの長さは、体長の 44 ~ 70% 位を占めていてその基部には 1 ~ 2 本の付属系があります。また、ヒゲの先端にある細長い球状体の基部近くに 1 対の付属系があり、その球状体全体には付属系が多数あって (末端ほど密になる) ブラシ状になっているのが本種の特徴です。また本種と近縁なフデホシエソ (*L. robustus*) ではその付属系は少なく 1 ~ 3 本です。

駿河湾内で行われているサクラエビ漁で獲れ

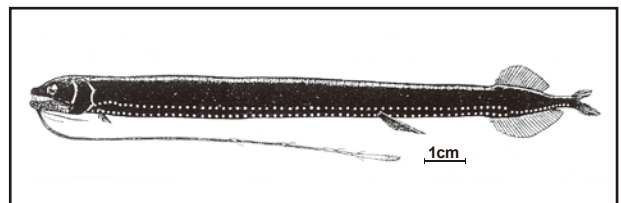


図2. ヤリホシエソ
発光器や鰭の位置関係が良く判ります
Imai(1941) から引用

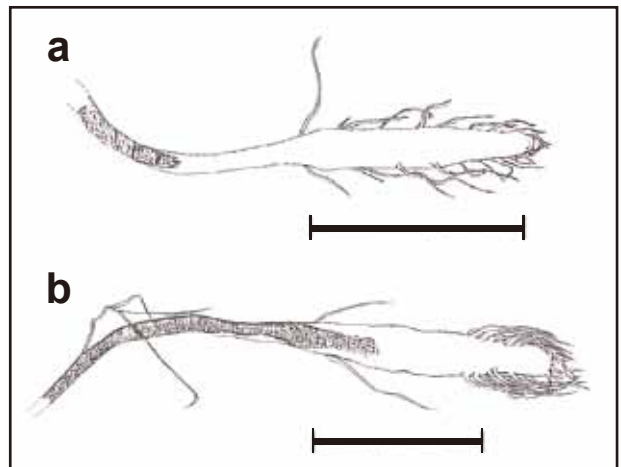


図3. ヤリホシエソのヒゲの先端の球状体
a. タイプ 1, b. タイプ 2, スケールは各々 10mm.

た本種のヒゲの先端にある球状体の形状を調べたところ、種内には球状体の付属系の付き方に上述した本種の特徴と異なるいくつかの変異があることが判りました。その変異のいくつかは図 3a のように付属系は上下の縁に多数あり、調査した 49 個体の 51.8% を占めて最も多く、さらに図 3b のように末端に偏っている個体も見られました。

本種の球状体の付属系の位置や数の変異の情報は、種間関係にもおよぶので、今後多くの標本を入手して詳細な研究を期待します。